

1 産地の概要

<対象地域> 静岡市

<対象品目> イチゴ

<産地の現状・課題>

- ・一戸あたり施設面積が小さく、生産者の高齢化が進んでいる。
- ・高設栽培が高い割合で普及しており（11haうち7.5ha）、省力的な栽培に取り組んでいるが、栽培施設が点在しているケースが多く、まとまった面積が確保しにくい。また、若手生産者の規模拡大や新規就農の支障となっている。
- ・このため、生産基盤の整備、農作業管理の効率化、栽培管理技術の高度化による生産性の向上が必要である。

2 検討体制

<JA静岡市スマート農業推進協議会構成員と役割>

- ・JA静岡市苺委員会（役割：検証、新たな営農技術体系の検討）
- ・JA静岡市、静岡経済連（役割：導入推進、情報発信、技術支援）
- ・静岡市役所（役割：導入推進、経営支援）
- ・静岡県中部農林事務所（役割：導入推進、データ検証、計画策定支援）



環境制御勉強会の様子



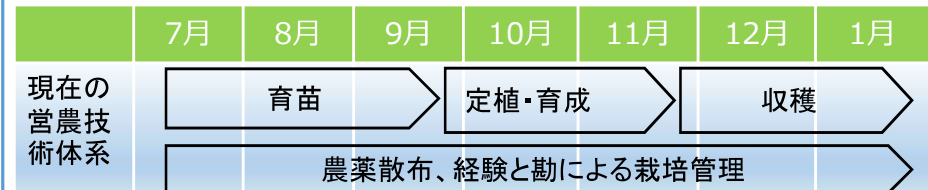
UV-B防除装置

3 新たな営農技術体系への転換

<目指す産地像>

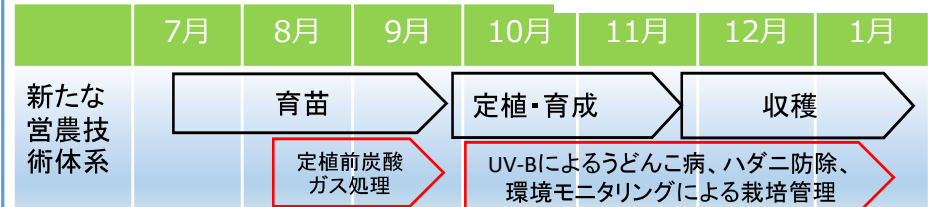
AI病害予測機能や紫外線UV-B、天敵利用等による病害虫の発生抑制、作業記録ツールによる合理的な作業工程への改善により、農作業の効率化・労働時間の削減を図る。

環境モニタリングシステムによるデータに基づく高品質栽培技術を実践し、生産の安定、収量の増加、品質の向上を図る。



炭酸ガスハダニ殺虫システム同入

UV-B防除装置導入
環境モニタリング装置導入



<新たな営農技術体系の効果（検証結果）>

・うどんこ病被害果 【現状】慣行：120個/10a/月 → UVB：8個/10a/月

約9割↓

<新たな営農技術体系の今後の取組内容>



* パッキングセンター：農産物のパック詰めを行う施設